

ここは

にほん しゅと とうきょう
日本の首都は東京、

ぎんざ
「銀座」という ところです。

ずらっとつづく たかいビル、

ひっきりなしの ひととお 人通り、

伊奈吉にとっては

知らないもの、

知らない人だらけの ひと ばしょ 場所でした。

ひかり
まぶしい光に つつまれながら、

伊奈吉は ひとり、

どんどん ころろぼそく

なっていました。



「すみません!!!
おまたせしました!!!」

なにもの

何者かが とつぜん、

伊奈吉に

こえ

声をかけてきました。

しごと

「仕事が かたづくのが

おそくなりまして…、

まっいて くださり

ありがとうございます!!



♪

せんぱい

でんわ

あっ、先輩から 電話です。

いま、どこに いるのかな。

ごうりゅう

合流できたって

おつたえしますね!

ハイ、もしもし!」

「ええ、ライオンさんの
ところにつきました！
みなさんはどちらに？」

…え？

ぞう
像じゃありませんよ。

しょうしんしょうめいほんもの
正真正銘、本物の
ライオンです……

……………エッ!?
ライオンって、
みせ なまえ
お店の名前
だったんですか!？」



「あほか…。

あの、すみません
ライオンさん。
なんか おれ俺、かんちがいを
してたようで……」

